

高校会議所 マスマス元肥をPR JA資材館で販売手伝う

富士宮高校会議所はこのほど、外神のJAふじ伊豆ふじのみや資材館で、独自開発した堆肥「マスマス元肥(げんぴ)」の販売を手伝った。杉山栞奈会頭(富士宮北高)をはじめとする5人のメンバーが参加し、来店者に農作物

への効果や取り組みをアピールした。マスマス元肥は、ニジマスの残渣(ごんさ)と朝霧牛の牛ふんを原料とし、廃棄物の有効活用による持続可能な地域づくりを目指すSDGs実践として普及・活用に残っている。同

で、冷静な対応を心掛けた」と、時間をかけて交番に送り届けたという。高齢男性は無事に家族の元に帰ったことも聞き、「初めての出来事だったが、あるとき声掛けて良かった」と笑顔で話した。



関係者
メンバーが売り場に立ち、運搬も手伝う(提供写真)

資材館では高校生の取り組みを応援するため、昨年からマスマス元肥を販売している。メンバーらは説明チラシを配り、「通常堆肥と比べてリンやカリウム・アミノ酸が多く、

野菜、草花、果樹のほか土壌微生物にいい影響を与え、などの特長や効果的な活用方法を紹介したほか、車への運搬も手伝った。先着購入者50人に増量プレゼントを用意し

たこともあって、販売は好調だったという。メンバーは「消費者と直接交流できて、大変勉強になった。持続可能な地域づくりに向けて、さらに努力する」と話していた。